

2023年度「世界とつながる島根づくり助成金」交付事業一覧

①事業概要 ②実施場所 ③実施時期 ④助成額 ⑤その他

整理番号	事業名	団体名	概要
1	日本語教育事業	出雲日本語ネットワーク	<p>①地域で日本教室を開講し、学習者の希望に沿った日本語指導を行い、日本語能力の向上と国際理解を図った。</p> <p>②出雲市</p> <p>③通年</p> <p>④117,000円</p> <p>⑤コロナが5類に移行し、少しずつ通常の活動が戻ってきたが、コロナ前の状態にはならない。その中でも、日本人ボランティアを増員し、アジアやブラジルを中心とした学習者の個々の要望やスキルにあわせた対応に努めた。</p>
2	第2回 しまねベトナム 交流サッカー大会	特定非営利活動法人 しまねベトナム 同志会	<p>①島根（松江・出雲）及び隣県（鳥取・広島）のベトナム人、日本人チームとのサッカーを通じた交流。競技者は120人（8チーム）。</p> <p>②松江市</p> <p>③5月28日</p> <p>④141,000円</p> <p>⑤日本人チームが今年の第1回目より増えて、交流の機会も増えた。日本人の応援者も増えた。県サッカー協会からの審判派遣により、規律のある試合進行ができた。日程決定後の準備期間が短く、一般への周知が十分にできなかった。</p>
3	国際化環境づくり事業 日本語ボランティア 研修会	浜田国際交流協会	<p>①浜田市内の日本語教室と共催し、外国人住民への日本語学習支援のきっかけとなる研修会を開催した。参加者は、日本人12人・外国人8人。</p> <p>②浜田市</p> <p>③11月19日</p> <p>④64,000円</p> <p>⑤外国語としての日本語を学ぶ上での難しさについて、分かりやすく学ぶことができた。外国人学習者には、グループ活動に参加してもらった。講師の先生から、大阪や全国の日本語教育事情を聴き、参加者の刺激となった。開催曜日を再検討して、広報に力を入れる。</p>

4	言語的・文化的に多様な子どもたちの居場所づくり2022	こどもサポートプロジェクト	<p>①言語的・文化的に多様な子どもたちのサポート教室（居場所）、学習支援（学校の宿題・日本語学習等）、アクティビティ（スポーツ・ゲーム・創作活動）を、市内3地区（5会場）で土日祝日及び長期休暇期間に開催した。のべ321人参加（スタッフ除く）</p> <p>②出雲市</p> <p>③5月～3月</p> <p>④45,000 円</p> <p>⑤関係する小学校・県内外の大学生・高校生・地域ボランティア等多様なメンバーで運営できた。情報共有には限りがあるが、スタッフ研修により、外国ルーツの子どもやその保護者の現状や背景への理解を深めた。</p>
5	ポルトガル語母語教室2023	こどもサポートプロジェクト	<p>①主に月曜日の放課後、市内2会場（3クラス）にて、読み書きの学習や言語・文化の保持・習得のためのゲーム・創作活動を行い、季節のイベントを実施した。</p> <p>②出雲市</p> <p>③5月～3月</p> <p>④108,000 円</p> <p>⑤塩谷地区1カ所から斐川地区でも開催することができた。未就学児から中学生まで子どもたちの背景が異なっており、学習意欲を高める工夫が継続に繋がったと思う。地域の多文化交流イベントでのステージ（ダンス）発表の準備も授業の一貫として行った。</p>
6	日本語教室	日本語ボランティアゆうわ	<p>①日本語教室を定期開催し、延べ270人の外国人学習者の参加があった。日本の伝統文化や地域とふれあうための活動も行った。</p> <p>②出雲市</p> <p>③通年</p> <p>④79,000 円</p> <p>⑤コロナが5類移行となり、従来の活動に戻すことに取り組んだ。火曜日だけでなく、11月からは日曜日教室も3年半ぶりに再開した。学習者も会社員・主婦・学生など層が広がり、学習方法の変化や個別のニーズへの対応等、検討が必要。</p>

7	ひかわdeにほんご教室の指導	ひかわdeにほんご	<p>①地域で日本語教室を開講した。学習者の「人と話したい」「人の言うことがわかりたい」という気持ちを考慮した学習の場を提供した。教室のべ参加者204人。</p> <p>②出雲市</p> <p>③通年</p> <p>④67,000円</p> <p>⑤技能実習生等の就労状況が厳しくなり、学習者が安定して参加できない状況がある。日本語能力試験への関心も高まりつつある。数年ぶりに「食」を通しての交流会を開催できた。今後も様々な形態を計画したい。</p>
8	国際地域会議 「津和野会議」 国際プログラム	(一社) 津和野まちとぶんか 創造センター	<p>①キーノートセッション（国内外の専門家によるプレゼン）及び6プログラムで構成されるまちなか会議（町中に会議の場を広げた参加型の会議）を開催した。参加者は、地域住民・大学関係者ほか約150人。</p> <p>②津和野町</p> <p>③12月2日</p> <p>④113,000円</p> <p>⑤会議の規模が大きくなり、多様なプログラムの同時進行は、運営側に大変な負荷がかかった。今回得た新たな繋がりやアイデアを実践し、より国際的な性質を担保するよう努める。</p>
9	国際 ワークキャンプ 平田	国際 ワークキャンプ 平田 実行委員会	<p>①県内外のキャンプメンバー延べ32人が参加。海外ルーツは、中国・ミャンマー・ベトナム出身。地域の小学生や住民と海岸清掃やテラコヤ活動、盆踊り等を体験。送別会には地元から約50人が参加した。</p> <p>②出雲市</p> <p>③8月6日～12日</p> <p>④65,000円</p> <p>⑤コロナ禍を引きずっていたのか、外国人参加者が予定より少なく、直前まで決まらなかった。地元の若い人を巻き込んで島根でも国際交流できることを子どもたちに見せていきたい。</p>